「家族の始まり」

りはな　（20 代）

私は今、付き合って４年の彼氏と３年同棲している。１Ｒ８畳の、一人暮らし用の部屋に、だ。最初は家賃や家具、電気代などの節約としか思っていなかった。

私は自他ともに認める「人と暮らせない人間」だ。自由気ままに暮らすことが好きで、一人の時間も空間も大切にしたい。自分は自分、他人は他人。相手に自分の価値観を押し付けたくないし、相手の価値観を押し付けられるのも苦手だ。だから、誰かと暮らすことは、自由を手放すことだと思っていた。この同棲も、一時的な共同生活のつもりだった。

だが、気づけば３年が経った。何度喧嘩をしても、大喧嘩をしても、最後には笑って許してしまう。

この前も、私の生活スタイルにとやかく言われて大喧嘩に発展した。お互い頑固で譲らず、同じ話を何度も繰り返し、どんどん熱くなっていく。けれど、しばらくして、「一体何をこんなに熱く議論しているんだろう」と、ふと可笑しくなってしまった。たった一つの生活習慣をめぐって、まるで世界の命運でも背負っているかのように言い争う二人の姿が、あまりにも滑稽だった。気づけば二人でゲラゲラ笑っていた。結局、喧嘩両成敗。「次からもう少し〇〇しよう」「いいね」と言って笑って終了した。

私はずっと、価値観が似ている人と結婚し、家族になるのだと思っていた。けれど最近は、そうではないのかもしれないと思い始めている。家族とは、同じ価値観に合わせることではなく、違う価値観を持った他人と、どうしたら一緒にいられるかを考え続けることなのかもしれない。時には喧嘩をして、時には笑って、お互いが心地よく暮らせる場所を少しずつ作っていくこと。離れないための工夫を積み重ねていくこと。それが、私の思う「家族」のかたちなのかもしれない。

血のつながりがなくても、「この人とは、喧嘩をしても同じ部屋で笑って眠れる」と思えたとき、家族は少しずつできていくのだと思う。１Ｒ８畳の小さな部屋で、私はそんなことを知った。